



このニュースレターでは、
様々な仮設住宅やまちで南三陸町の方々が取り組まれている
元気の出る活動を紹介し、
これからの暮らしづくり・まちづくりに向けて、
皆さんがこのまちで大切にしていきたいと思っていることを
私たちなりに発見し、綴りたいと思っています。
発行元：NPO法人コレクティブハウジング社



協働する
たのしさ

ちくちく トントン 活動レポート!

昨年から、皆で集まっておしゃべりをしたり集会所が心地よくなるような工夫をするきっかけになればとの思いで、いくつかの仮設住宅で刺し子のコースターなどの手仕事作品をつくる活動をお手伝いしてきました。

6月末には、志津川中学校仮設での初めての集まりを開催。何と15人以上の方があつまって、色とりどりの生地や糸を使いそれぞれの方の個性があふれる楽しい作品ができあがりました。

お昼を過ぎても手仕事を続けていらっしゃる方が沢山いたため、午後も引き続いて集会所で楽しみましよう、みなさん声を掛け合っていていらっしゃいました。

皆さんの素敵な作品を見せたいので、またお邪魔いたします！



大工仕事で 「とんとん」クラブ

これまでは、女性の方が主に活動されていた手仕事の場。男性の方も出てきやすいといいねと、いろいろなところで声を聞いていま

した。そこで出てきたアイデアが、木材を使ったテーブルやイスづくりなどの大工作業！「チクチク」手仕事に対して、「とんとん」クラブはどう？と、話も盛り上がりつつあります。

私たちが志津川中学校仮設住宅を訪れた日、ちょうど男性たちが力を合わせて作業中。ちょうど新しくゴミ捨て場を作り直していらっしゃるところでした。「声をかけたら、すぐ集まってくれたんだよ」と、若い方から年配の方までが一緒になってトントンカンカン。こちらの活動でも、資材集めなどお手伝いさせていただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします！

(大橋徹平、狩野三枝)



椿—花咲く町づくり構想

南方仮設住民 工藤真弓

「旧市街地に椿を植えたいなあ」

コレクティブさん（NPOコレクティブハウジング社）との出会いから始まったお礼づくりの会「ありがとつくるん会」の、今や会長のような元廻館の阿部とき子さんが、ある活動のなかで「旧市街地に椿を植えたいなあ」と呟いたところから、このお話は始まります。

阿部さんによれば、「椿は松に比べて塩水に強く、実も取れて油も取れる、いろんなことが出来るんだよ」と。椿が塩害に強いのは、根が土を抱え込むように自生しているからだそうです。それを聞いて、昔椿の実の先端を石の上で削って穴を開け、爪楊枝で中の油を取り、笛にして吹いたことを思い出しました。その椿の油を搾って、その油でけんちん汁をつくると旨いんだ、と父が常々言っていることも。父曰く「椿は昔、お遍路さんが沿岸を廻って歩きながら植えていった花で、桝の代わりに使われることもあったそうだよ」。つまり鎮魂の花—椿。

これが、椿—花咲く町づくり構想の誕生でした。



南方仮設集会所には、ありがとつくるん会の写真が。

まちづくりは、自然の中で人が暮らしをつくっていくこと

仮設の小さな一角に花や緑を大切に育てている住民の皆さんの感覚と、椿で町を蘇らせようという発想は、とても自然に調和するような気がしました。まちづくりって建物をつくっていくことじゃない。自然の中で人が暮らしをつくっていくこと。私たちがいつも傍らで支えてくれている緑の力・花の力で、荒野となった町の上に新しい未来を描く。そんなまちづくりだったら、もっと多くの人に関わっていけるんじゃないだろうか。



CHCのメンバーも、真弓さんから「椿のある町並み」のお話を伺いました。

枯れた杉のそばに、
花を咲かせた椿を発見！



8月4日には、
町づくりワークショップを
企画されています。

この町で慎ましく、ゆたかに生きていくために

ちょうどそんなことを考えていた時、私は日本造園学会の皆さんと出会いました。造園学会の皆さんが、学生さんを中心に南三陸町の未来を自由に描いて発表して下さる機会があったのですが、その時集まった住民の皆さんの興奮ぶりは、さながら「町を自由に描いていいんだ」という想いの突破口が破られた証のようでもありました。「今度は椿のある町並みを描いていただけませんか！私も描いてみますから！」。

後日、学生さんが描いてくださった未来予想図の中で、椿は避難路として活かされていていました。いつもは町の景観の一部として、災害時には避難路として浮きあがる椿。それは塩害に強いだけではなく、人の命も救う力強い植物。さらに椿を川沿いに植えれば、鎮魂の3月には花が落ち川は椿に染まるというのです。

昔海だったこの町の宿命を受け入れ、人としての立場を違わず、慎ましく、ゆたかに生きていくためには。

傍らに椿を思い描きながら、きょうも私は考えています。



南三陸へ愛をこめて

南三陸町への訪問をはじめて1年になります。工藤真弓さんの『つなみのえほん—ぼくのふるさと』を拝見しました。幼い息子ゆうすけ君の母へのメッセージ、「僕にはこわれたふるさとがあるんだよ」。この切ない気持ちを率直に受け止め、未来に向けてまちを創再生しましょう。車がなくて歩いて移動している人がいます。こまめに循環バスなどを走らせ、交通のバリアフリーを実現する方法も考えたいものです。避難所や仮設住宅での新しい出会い、多様性を大事にしながらコミュニティ創生を実現したいです。

人と人のつながりは宝物です。大切なもの、未来

に引き継ぎたいものをしっかり見極め、持続可能な暮らしづくりにチャレンジしたい。融合・連携は南三陸の発信の鍵となるのではないかと思います。1年間で出会った魅力的な方々、美しいリアスのまちへ愛をこめて。

(渡邊喜代美)



コラム

CHCの活動に参加して

高台移転の跡地をどうするか？



震災から1年以上が経って、ようやく新たな居住地の場所が決まろうとしており、復興もいよいよこれからだという気がします。その中で、高台移転をした後、もともと市街地があった土地をどう活用するのかということも今後のまちづくりでは重要な論点になると思います。志津川地域の計画案では、そうした土地の大半に自然公園を造ることが提案されていますが、その公園を防潮堤で囲うことになっています。人が住まない土地に防潮堤を造る意味についても、もう一度問い直してみる必要があるかもしれません。

(塩崎由人/東京大学 地域安全システム学研究室)

支援ネットワーク紹介
コレクティブハウス聖蹟
のみなさん



東京都多摩市にある「コレクティブハウス聖蹟」。0歳～70代までの17世帯が暮らしています。

ここでは、南三陸町で行われている手仕事のために、全国から寄付される布や生地の仕事をして、各仮設住宅に向けて送り出しています。有志による作業ですが、毎回多くの居住者が参加しています。またイベントで手仕事作品を販売することで、みなさんの活動のお手伝いをさせていただいています。

これらの活動を含め、私たち自身の生活に関することは、居住者のみんなが参加する話し合いで相談しながら、自分たちで決めて行動しています。世代も多様で、やっている仕事も様々なので、全員が一度に集まることは難しいですが、それでもなるべく一つのテーブルにみんなが参加して、話し合うことを大切にしています。最近では、「ホームステイ先として留学生を受け入れよう」とか「『ハウスの暮らしについてドキュメンタリーの撮影をしたい』という留学生を受け入れよう」と話し合いをしました。居住者同士だけでなく、ハウスの外ともつながりのある暮らしを、自分たち自身でつくっていけたらと思っています。

(居住者：大橋徹平)



この日は
金環日食観察！
みんなで屋上に
集まりました。

コモン・て・しごと ～南三陸町から東京へ

現在、東京のフェアトレードショップ「パッチワーク」さんで、平成の森 ばあばどーる5丁目 の皆さん制作の「刺し子コースター」を取り扱っていただいています。



一針一針丁寧に縫われている作品の中から、手仕事作品好きの目の肥えたお客さんに気に入ってもらえそうな作品を選んでいただき、お店やイベントなどで販売していただいています。（狩野三枝）



発行日：2012年8月17日
発行：NPOコレクティブハウジング社

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア1175
電話：03-3315-0255
メール：info@chc.or.jp

[CHC南三陸支援チーム]
大橋徹平、狩野三枝、川上英里、マーレン・ゴツィック、渡邊喜代美

CHCでは、この活動のために以下の助成金をいただいています。

■ 平成24年度 独立行政法人福祉医療機構助成 福祉活動支援事業
助成事業名：持続可能なコミュニティづくり支援事業